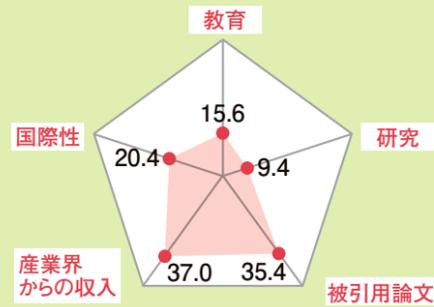




学生数 / 30609人 学部 / 法、経済、経営、理工、建築、薬、文芸、総合社会、国際、農、医、生物理工、工、産業理工、短期大
大学院 / 法学、商学、経済学、総合理工学、薬学、総合文化、農学、医学、生物理工学、システム工学、産業理工学
▶ THE 世界大学ランキング 2016-17 / 601-800位
▶ 同アジア大学ランキング 2017 / 191-200位
▶ 同世界大学ランキング日本版 2017 / 54位

指標	スコア	順位	参考データ
総合	15.6-21.4	801-1000位	ST比率 / 13.0
教育	15.6	1001+位	
研究	9.4	801-1000位	留学生の割合 / 2%
被引用論文	35.4	601-800位	
産業界からの収入	37.0	601-800位	女男比 / 29 : 71
国際性	20.4	801-1000位	



取り組み体制

- ▶ 世界大学ランキングの窓口は、インターナショナルセンターが担当
- ▶ 教育は全学組織である21世紀教育改革委員会を中心に方針を定め、改革を推進

分野	重点度	取り組み	指標
教育	△	▶ 大学院の学修・研究環境の改善(社会で活躍できる大学院修了生の育成をめざして、専門を超えて知を俯瞰し活用する力を育てる体制の整備など)	—
研究	○	▶ 学部横断の研究コアを推奨 ▶ 学術研究支援部にて科研費の執行などを支援 ▶ 研究助成金制度による支援(一般研究助成、40歳以下の若手研究者を支援する奨励研究助成金など)	科研費の申請・採択や論文数(個人研究費の金額に反映)
被引用論文	◎	▶ 研究や研究者の見える化(researchmapへの研究公開) ▶ 海外トップレベル大学との研究協力を強化	—
産業界からの収入	◎	▶ 民間企業からの受託研究実施件数は275件で全国2位 ^{*1} となっており、リエゾンセンターにて産官学連携・交流を推進(研究シーズ集の作成や研究公開フォーラムの開催など)	—
国際性	○	▶ 国際学部新設によるキャンパスのグローバル化、海外提携校との国際共同研究の推進など ▶ 海外提携校の拡充による留学生の増加や国際共同研究の推進	—

*各大学による重点度 ◎:より一層伸ばす強み ○:課題あり △:今後力を入れていきたい

*1 文部科学省「平成27年度 大学等における産学連携等実施状況について」より

注目! 学部を問わずプロジェクトごとに研究者を募るシステムで研究力を伸ばす

近畿大学では、14学部を有する総合大学のメリットを生かして、多岐にわたる専門分野をつなぎあわせ、大学として研究力を高めることに取り組んでいる。それが「研究コア」で、所属学部や学科の枠を越えてプロジェクト体制で研究を推進するしくみだ。研究分野としては5つのクラスターが設定されており、提案者はその中から1つを選んで、提案内容やプロジェクトチームの構成などを決めて、申請する。細井副学長は「学部を横断する研究チームをつくり、『オール近大』で取り組むことで、研究力をさらに強化できる」とその意気込みを話す。

- 5つの研究クラスター
- 近畿大学の全研究分野を5つのクラスターに分類
 - 知の創造
 - 未来社会・未来技術
 - 次世代の食と植
 - 環境・エネルギー・再生
 - 健康・長寿・発達

近畿大学 「KINDAI」の理解者を世界に広げる 国際共同研究を強化

競争原理の導入など、研究活動の活性化に先進的に取り組んできた近畿大学。世界ランキングへの対応や国際競争力の強化について話を聞いた。



副学長 細井美彦

ほそいよしひこ ● 1979年京都大学農学部卒業。1987年同大学大学院農学研究科博士課程修了。1993年近畿大学生物理工学研究所講師。1997年同大学生物理工学部助教授。2002年同教授。2010年近畿大学先端技術総合研究所長、生物理工学部長。2014年より現職。

国際共同研究を拡充し 世界的評価を高める

今回もTHE世界大学ランキングにランクインできたことで、本学の研究力や産学官連携の実績などが、世界的に高い評価を受けるレベルにあることを確認できました。そのことは本学にとって大きな収穫です。しかし、海外大の躍進がめざましく、日本の大学のランクが相対的に低下していると感じています。今後は、海外大と同じかそれ以上の努力をしないと、世界では後れを取ることになるでしょう。

このような状況の中、国際競争力を高めるには、国際性の向上は欠かせません。そのため、キャンパスのグローバル化を推進するとともに、国際共同研究の拡充にも取り組んでいます。

前者については2016年に国際学部を新設し、1年間の全員留学を実施しています。これにより毎年500人規模で国際感覚を身に付けた学生がキャンパスに増えています。

国際共同研究では、約200校の海外提携校を中心に研究室単位での共同プロジェクトを増やしていきます。この狙いは、研究者同士の国際交流を活性化させることにあります。

本学のランキングデータを分野別に分析すると、論文の発表数や論文の引用回数は比較的高いスコアを得ている一方、それが評判調査のスコアにつながっていません。これは世界の研究者に、「KINDAI」が認知されていないことに原因があります。世界における大学評価では、評判が重視されています。つまり、

努力するだけでは評価されず、その努力が周囲に認められ信用されることで初めて評価されるといふことです。国際共同研究を拡充し、「KINDAI」の理解者を世界中に増やしていくことで、本学の世界的評価を高めていきます。

戦略的な教育によって 次世代の研究者を育て

これからは、今あるものの改善や発展だけでなく、世界的潮流を捉えて戦略的に教育を創ることが求められます。その点で、海外の大学との情報交換は欠かせません。本学と交流協定を結んでいる大学にはその国のトップレベルにある研究大学が多く、それらの大学からは大学経営の戦略性について学ぶことが大いにあります。

今、世界で成功している大学に共通する取り組みの一つに、文理融合があります。本学では、その考えを2017年4月に開設した図書館「アカデミックシアター」に取り入れています。例えば、建築については、工学や理学、デザイン、歴史などからもアプローチできるように独自の分類で図書を配架し、専門という壁を突き破って学生が風通しよく学べる場を提供しています。

他にも、世界的に著名な研究者を招いて本学の研究者との交流やディスカッションなどを行っています。若手の研究者にとってそうした研究者と接点を持つことは国際舞台で飛躍する大きなチャンスになります。世界で活躍する研究者が本学から育つ環境づくりも、国際競争力強化の大切な取り組みだと言えるでしょう。